

# ～よくわかる妹キャラシナリオの書き方～

2C higuyume

## 1、はじめに

私はこう考えるわけです。「物語の基本は『起承転結』だ！」と…

タイトルはちょっと変態ですが、中身は大まじめに「シナリオを描くにはどのようにすればいいのかわかるか？」ということを書いていこうと思います。

## 2、起承転結とは？

起承転結…

1 漢詩、特に絶句の構成法。第1句の起句で詩意を言い起こし、第2句の承句でそれを受け、第3句の転句で素材を転じて発展させ、第4句の結句で全体を結ぶ。

参照～大辞泉～

まあ少々わかりにくいので具体例で説明してみよう。

ここではファイナルファンタジーVを例に取ってみようとおもいます。

### 起

世界中に謎の隕石が降り注ぐと同時に、世界中で異変が起こった！さらに風水火土の各クリスタルが暴走を始める。これはピンチ！ということで主人公は各地のクリスタルをめぐる旅に出た。

### 承

クリスタルの暴走を止めることもできず、悪の親玉エクスデスが復活。異世界に連れていかれた主人公一行は、エクスデスを倒しにエクスデス城へ向かう。

### 転

エクスデスとの戦いに勝利したものの、世界はいまだ平和にならない。世界は無に飲みこまれていく。さらに二つの世界はもともと一つの世界だったということで、現実世界と異世界が合体してしまう。再び集結した主人公一行は異次元のはざままで待つエクスデスを倒しに行くことに。

### 結

遂に強敵エクスデスを倒した主人公一行は平和にぐらしめたとき……めでたしめでたし。

有名ゲームも、起承転結を用いて物語全体をまとめているのですね。更に起承転結は、物語のあらすじだけではなく各種イベントでも用いられているのです。例えば火のクリスタル編では次のようになっています。

起

風が止んでしまい船を動かせなかった主人公一行は、火の力で進む火力船を貸してもらいにカルナックへ行くが、火力船が火のクリスタルを暴走させてしまうとして捕まってしまう主人公一行。

承

火力船を発明したシドに助けられて、主人公一行は火力船を見に行くことに。どうやら火のクリスタルの影響で暴走しかけているようだ……。

転

火力船の問題を解決したら、今度は火のクリスタル本体だ！！ということで火のクリスタルを見に行くと……そこには崩壊寸前の火のクリスタルが！！

結

火のクリスタルはあえなく砕け散ってしまい、崩壊する城から逃げ出すことに成功した主人公一行は、旅を再開することに。

このように小さな起承転結のおかげで、飽きなくゲームをプレイしていくことができるのですね。

### 3、簡単に起承転結を書こう！

では早速、実際にシナリオを書くときのポイントを押さえていきましょう。ちなみに今回はタイトルの通り妹キャラのシナリオということで、恋愛系ノベルゲームを意識したものになっています。

起

人は見た目が9割ということから、ここが一番大切なところ。とはいっても、あまり長くてもだれるので、あっさり簡潔にまとめるといいですね。

主人公の紹介や、メインキャラクターの紹介みたいなものを入れて、今後の物語を想起させましょう。

承

ここは、物語のリラックスタイムです。小さなドタバタやトラブルはつきもので、物語の根幹とあまり関係ないような話を書くのも、このタイミング。

一般的に、ヒロインが複数いるような物語の場合、フラグはここで立てていきます。

転

ルートを決定するのがここ、主人公とヒロインとの間に、トラブルが発生して、それを解決して無事恋人に……というのがベタなパターンですね。

シリアスなシーンが多くなり、ロマンチックなシナリオを書けるといいですね。

結

さて「起」の部分が9割なら残りの1割はここ「結」です。

恋人となった主人公とヒロインの、ラブラブ生活を書くもよし、更にトラブルを起こして主人公をかつこよくみせるのもよし、と結構いろいろできるのですが……

しっかりとまとめないと、物語全体を台無しにしてしまう可能性もあるので気をつけましょう。

#### 4、実戦！！

実際に書いてみました。

ちなみにキャラの設定は…

甲助…主人公で妹のことが大好きなシスコン兄貴。

弥宵…ヒロイン兄のことが大好きなブラコン妹。

注)二人は義理の兄妹という設定です。

響香…主人公と同じクラスになった美少女、主人公に気がある？

#### 起

主人公は夢の中で妹の弥宵に何かを言われているが、おぼろげにしかわからない。

朝目覚めるといつもの日常が……。

妹の弥宵を抱きしめ、妹分を補給する兄。

同じ学校に新しく入学した弥宵と、一緒に登下校する。

とてもうれしそうに腕に抱きついてくる弥宵。

口では離れるように言うものの、内心喜ぶ甲助。

新しいクラス分けを見て、教室へ向かう。

そこで学校一の美人と名高い響香と遭遇。

一緒にクラス委員をやることになった。

#### 承

持ち前の人柄で、新しいクラスにもすぐになじむ甲助。

そこで女子の中で一人孤立している響香を発見する。

どうやら女子の嫉妬を受けているらしい。

甲助はそんな響香を助けることに……。

家に帰れば可愛い妹が学校では美人のクラスメイトがずっと一緒にいることから周りの男子は甲助をひやかすことも……。

そのたびに「そんなんじゃないって。俺は妹の弥宵が好きなんだからさ。」と言ってシスコンぶりを発揮する。

#### 転

響香が甲助に告白をする。(響香が好意を持っているというより、甲助と弥宵の仲を悪くしようとしている。)

甲助はその時に過去の記憶を取り戻しかける。(前にもこんなことが……。)

甲助は悩む。(弥宵のことを考えてしまう自分がいるので。)

弥宵の様子も変わる。(甲助が響香に取られてしまわないように、甲助に甘えだす。

例えばいじめを受けているから助けて、というように。)

甲助は弥宵のことを思い響香と付き合うことはない決心する。

甲助は響香にその旨を伝える。

響香は弥宵と二人きりで話すことに。

そこで弥宵は、響香に甲助と弥宵は本当の兄妹でないことを話す。

そして甲助が瞬間的な記憶喪失であることも話す。

甲助と弥宵と響香が一緒に下校していた時、交差点の手前で響香が突然、甲助にキスをする。

驚いた甲助と弥宵、そして弥宵は逃げるように走り出す。

弥宵はそのまま交差点に入ってしまう、横から車が走ってきた。

クラクションの音に腰が抜けて動けなくなる弥宵。

甲助は響香をふりほどき、弥宵を助けに行く。

甲助は身をていして弥宵を助けるが自分は頭を強打し、そのまま意識を失い倒れてしまう。

## 結

～回想シーン～

甲助は弥宵に恋心を持つようになった。

しかし、甲助はこれが家族愛なのか、それとも本当の愛なのか分からなかった。

その頃弥宵も同じく、甲助に対して兄以上の感情を持つようになっていた。

弥宵は母親に相談した。

すると母親は、弥宵と甲助は義理の兄妹であると告白

二人とも幼いころに出会っているため気付かないだろうと思っていたらしい。

そこで弥宵は兄に告白することに……。

弥宵「お兄ちゃん……私、お兄ちゃんのことが好きなの。兄としてではなく、一人の男性として。」

甲助「弥宵……その気持ちは嬉しいよ。でも俺たちは兄妹だから……。」

弥宵「ちがうの！実は……私たちは、本当の兄弟じゃないの！！」

とまゝなんだかんだあって二人は恋人同士となった。

ある日のデートで、甲助と弥宵と一緒に歩いてデートに出かけた。

弥宵が甲助をからかい走りだした時に、突然横から信号無視の車が！！

甲助は弥宵をかばってはねられてしまい、頭を強打。

その後病院で目を覚ます甲助。

すると甲助の記憶からは、ここ最近の妹の記憶がなくなってしまった。

そのせいで、甲助は再び妹が本当の妹だと思い込むようになってしまった。

更に医師の話によると、無理に記憶を思い出させようとすると主人公の脳に異常をきたすらしい。

弥宵はそこから本当の妹として生きることを決めた。

～回想シーン終わり～

ということ思い出した甲助。

目が覚めると、そこは病院でベットには泣き疲れたのか、眠っている弥宵がいる。

すると響香が病室へ。

響香は甲助に謝ったが、甲助は逆にお礼を言った。  
「響香のおかげで、大切なことを思い出せたよ。響香の気持ちには答えられないけど、これからも仲良くしてくれよ。」  
響香は泣きながら何度も謝り続けた。  
響香が落ち着いて病室を出ていくと、すぐに弥宵が目を覚ました。  
甲助「おはよう、弥宵。」  
弥宵「あっお兄ちゃん！ごめんなさい私……。」  
泣きながら謝り続ける弥宵。  
弥宵「でも、私のせいで……。」  
甲助「そうだな……。二度もお前を助けることになるとはな。」  
弥宵「えっ2度もって……まさか……んっ。」  
甲助が弥宵にキスをする。  
甲助「ああ、思い出したんだよ全部……今まで心配かけてごめんな。」  
弥宵「うん。お兄ちゃん大好き！」  
甲助「ああ俺も弥宵が大好きさ。」

終

以上です。

いかがでしたでしょうか？多少端折っているため、急展開なのはご了承ください。先に述べたポイントと少しずれる部分もありますが、回想を用いた記憶トリックみたいな物語なので、少し複雑になってしまいました。

起承転結は基本の型だと思います。しかし、型にとらわれすぎてもよくないので、多少変えてもいいと私は思います。まあこんなこと言うと支離滅裂じゃないか？と思う人もいるかもしれませんが、ぶっちゃけると世の中そんなもんです。

ちなみにこのシナリオは私の作ったノベルゲーム「memory」から引用したものです。(この会誌を書いているときは誠意創作中ですが……きつこう書けるよね？……やっぱり無理そうでごめんなさい……いろいろあったんです……)なのでこれを読んで興味を持った方はぜひ「memory」をやっていただけると嬉しいです。

こっちがホントの終わり